



4階男子トイレ。「児童たちは、開き方に迷うことなく使えています」(佐藤信孝教頭)



4階女子トイレ。ドアは弧を描くようにスライドする回転式に。内引きでドアをよけることなく開閉でき、省スペースでリニューアルできる。

学校トイレ事例

04

改修

埼玉県さいたま市

さいたま市立浦和大里小学校

誰もが使いやすいトイレ実現のため、
回転式ドアの「ゆとりブース」を設置

2025年度までに
洋式化率90%を目指す

「さいたま市は、トイレの洋式化を重要視しています」と語るのは、さいたま市教育委員会事務局の築館淳さんです。

さいたま市では『総合振興計画実施計画』において、安全・安心で持続的な教育環境の確保を目指しています。そこには、学校の改修・建て替えと同時に、『学校トイレの洋式化』を推進することが盛り込まれています。

これまで、市では計画的に学校トイレの洋式化を進めてきました。2017年度の時点で2020年度の洋式化率70・6%の目標を設定。国土強靱化のための補助金活用もあり、実際には目標を上回る71・2%を達成しました。2021年度からの新たな目標では、2025年度までに市立小中学校の90%のトイレ洋式化を目指しています。

また、同市では、「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」を制定し、市内の公共施設に関して、車いすでも使え、オストメイト対

応設備を完備した「みんなのトイレ」の設置を進めています。もちろん学校のトイレも例外ではありません。

学校のトイレ改修においては、洋式化、床の乾式化、自動水栓化、段差解消、ピクトサインや「みんなのトイレ」の新設を行い、清潔で衛生的、誰もが使いやすい快適なトイレを目指しています。

児童にとってトイレは
衛生性を学ぶ大切な教材

大便器を和式から洋式に変更する際に課題となるのは、ブース数の確保です。洋式化を進める際、内開きのドアが便器に当たったり、立ち上がったときのスペースが確保できず、ブース数が減る場合もあります。さいたま市では、改修の際に男女を入れ替えたり、前室を使って便器数を減らさない工夫をしています。

こうしたさいたま市の考え方や思いが込められているのが、浦和大里小学校のトイレです。

その特徴は、各階の男女各トイレに1カ所、車いすでも利用可能

*「みんなのトイレ」:さいたま市の整備基準の名称。

4階女子トイレの手洗いスペース。前室だった空間(右奥)にも洗面器を設置。



4階男子トイレ。自動洗浄の小便器は壁掛け式にして清掃性を高め、衛生的。



4階女子トイレ。男女の各トイレ1カ所に、車いす使用者がスムーズに利用できる広さの「ゆとりブース」が設置されている。



4階トイレ入り口。トイレと廊下はガラスブロックで仕切り、トイレ内への採光にも配慮。



回転式スライドドアが設置されたゆとりブースは、児童5人が入ってもゆとりたっぷり。

な手すりつきのゆとりブースを設置していることです。

ゆとりブースでは回転式スライドドアを採用。開口が広く、ドアのデッドスペースがないため、車いすの人でも使いやすくなります。また、洗面器の下は車いすでも利用しやすいスペースがあります。

入り口はガラスブロックで目隠しされ、クランク式。プライバシーを確保しつつ、ここでも車いすの取り回しができるようにした広い取り回りとなっています。さまざまな配慮がされた新しいトイレを子どもたちは喜んで使っています。

「洋式トイレになり、手洗いの水栓や小便器はセンサー式に。衛生的で節水にもなり、今の子どもたちの生活に合っていると感じます。きれいに使うこと、節水について考えることなど、トイレは一つの教材としても大切ですね」(鈴木敦校長)



みんなのトイレ設置に伴い、校舎の入り口にスロープを新設。移動のための円滑な経路が確保されている。



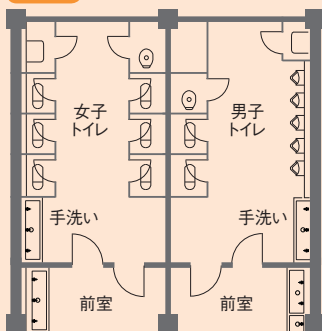
1階みんなのトイレ。市立小中学校ごとに1カ所設置。ベビーチェア、オストメイト対応設備などが完備。

さいたま市立浦和大里小学校 DATA

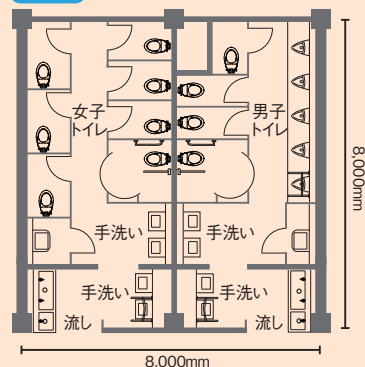
名称：さいたま市立浦和大里小学校
所在地：埼玉県さいたま市南区別所7-14-28
児童数：945名(2021年4月)
主：さいたま市
設計：竹内建築設計事務所
施工：建築＝松栄、機械設備＝東管工
竣工年月：2018年10月(改修)



改修前



改修後



4F
男女トイレ

男女とも便器数を減らすことなく広々としたブースを確保した上に、自動水栓化した洗面器を設置した。